

地域での信頼確立に向けた交流事業

お花の植替えや折り紙、また手作りおやつの出前やお餅つきなどを通じて、施設の入居者と地域の子供たちを中心に交流を図る「ちょボラ探偵団」活動を実施している。自治会との合同の夏祭りも開催し、法人及び施設の信頼の確立と地域の一員としての認知を図っている。

奈良県

社会福祉法人

宝山寺福祉事業団

〒630-0223 奈良県生駒市小瀬町1100

TEL: 0743-76-2266 FAX: 0743-76-2260

○法人設立年/昭和27年

○法人実施事業

- ①経営施設数合計: 34施設
- ②経営施設・事業【種別毎の数】:
 - 児童養護施設…1、乳児院…1、障害幼児通園施設…1、児童厚生施設…2、保育所…4、障害児デイサービスセンター…2、発達障害支援センター…1、障害児福祉センター…1、特別養護老人ホーム…3、養護老人ホーム…1、ケアハウス…2、短期入所…3、老人デイ…4、認知症専門デイ…1、訪問介護…2、訪問入浴…1、地域包括支援センター…1、居宅介護支援センター…3

○法人の理念・経営方針

当法人は、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、心身ともに健やかに育成され、又はその有する能力に応じ自立した日常生活を地域社会において営むことができるよう支援することを目的として、社会福祉事業を行うとともに、多様な福祉ニーズに対応するために公共事業を行う。

○取り組みの法人での位置づけ等

社会福祉法人のあり方や意義について様々な議論がある中、社会における福祉サービスの提供主体としての中核的存在であるばかりではなく、より積極的に地域社会に貢献する存在として、創意工夫を凝らし目に見える姿を示すことを目的に実施している。

○取り組みを実施している施設の概要

【施設名】

総合施設 やすらぎの杜 延寿

【施設種別及び利用定員】

特別養護老人ホーム(84名)、短期入所(16名)、ケアハウス(30名)、デイサービス(40名)、訪問介護、訪問入浴、居宅介護支援

○活動内容

- ◇活動開始年: 平成17年8月
- ◇活動の対象者:
 - 地域住民及びその子供たち
- ◇活動の頻度・時間:
 - ・ちょボラ探偵団の活動: 年4回、1回あたり2時間
 - ・夏祭り: 年1回、1回あたり10時間(数日の準備を含め)

活動実施の背景、実施にいたった理由

当施設(延寿)は、市が造成した保健福祉ゾーンの一郭に平成13年4月に開設した。

施設は市内南部の山手に位置し、街の中心からは少し距離もあり、地域との関わりをどの様に図っていくかが課題であった。開設当初は民生児童委員やボランティア団体を中心に見学の受入を積極的に行い、多くの皆様に知っていただくことから始めた。また法人では、平成14年度から日本生命財団高齢者社会福祉助成事業を申請し、「みんなが主役のまち作り」をテーマに、3ヵ年継続事業として「ちょボラねっといこま」の事業を始めることになった。その様な折に、当施設隣接地が造成され、相当規模の新興住宅地が誕生した。

この新興住宅地の誕生をきっかけに、模索していた地域との関係作りの大きな柱として、この自治区と共に成長して行こうと考えた。まずは、子供達に「ちょボラねっといこま」の活動の一つである「ちょボラ探偵団」への参加の呼びかけを始めた。

実施内容

「ちょボラ探偵団」とは、子供達が成長していく過程で、自分達が地域の重要な構成メンバーであるという意識を育成・醸成していくことを期待し、地域の小学生を中心に構成されたボランティア団体である。

活動としては、地域の子供達が施設入所者とともに、施設の玄関前の花壇を季節のお花に植え替える作業を年2回程度実施している。他には、焼き板でプレートを作り入居のお年寄りの名前を書き込んだ表札作り、折り紙工作、手作りおやつの出前、等を行っており、年末には餅つきに参加している。子供達には、少し遠い存在になりつつあるお年寄りとの交流活動を通じ、関わりを深めることで、自分達の持っているパワーや、またお年寄りの持っている知恵に気付き、今後成長していく過程で、自分達が地域の重要な構成メンバーであるという意識が育っていくことに期待している。

加えて、子供達だけではなく町ぐるみの交流事業として、毎年8月の第2土曜日に当施設と自治会の共催という形で夏祭りを行っている。当初は地域住民を招待するという形で始まったが、共催という形をとって早3年、現在では参加者700名を超える規模の夏祭りとなった。

活動効果 (利用者や職員、地域などの反応、影響)

「ちょボラ活動」では、最近は子供達も忙しく継続参加が難しいため、その変化は掴みにくくなっている。しかし、活動後の感想に「お話ができて嬉しかった。おじいちゃんおばあちゃん達が喜んでくれたことが嬉しかった。」とあり、施設入所者との交流活動の成果は出ている様である。

夏祭りでは、当日は子供達だけでなく多くの方との交流が図ることができる。何より準備段階で濃密に交流が図られている。自治会役員は毎年交替が行われるため、6月頃から連絡を密にし、開催内容について意見交換をする。夜宴や催し物の内容、準備の割り振り、買出し、後片付け等毎年の事ながら、話し合う内容は沢山ある。祭り当日が近づけば、花火の仕込みからゴミ箱作り、夜宴の材料の買出しまで、前日は、屋台の組み立てや配置、提灯の配線や音響設備、やぐらの組み立て等、ごく普通に一緒に夏祭りを盛り上げる者の集まりになっている。

今後の課題及び展開

当初の目的である認知や信頼の確立のための交流事業としては、成功と言えるであろう。しかし、深く関わりを持てた者はまだ一部に過ぎない。継続が力になるであろう。祭りについては、最終的には自治会の祭りとなり、施設も自治会の一員として参加している様になればと考えている。我々も自治会の一員として街づくりの一端を担うことが必要であろう。手始めに街の清掃活動等、一緒にできる自治会活動を計画しようと考えている。近くの小中学校とも共に活動ができればと考えている。

主な経費や財源及び人員等

(年間あたり)

主な経費	経費概算額	主な財源	財源概算額
ちょボラ探偵団	59,884円	介護報酬	59,884円
夏祭り	282,486円	介護報酬	282,486円
<合計>	342,370円	<合計>	342,370円

- ・ 取り組みに係わった職員数 約50名
(職種等：特養 相談員、介護職等)

